

21世紀ひょうご市民学会 会報

10号
2009年8月10日

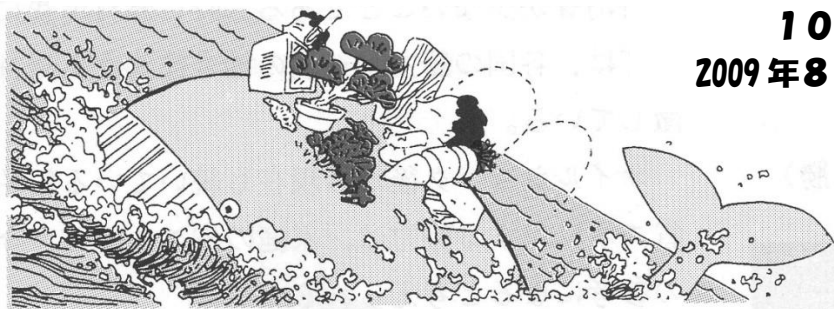
—編集・発行—

21世紀ひょうご市民学会

「神戸生活創造センター」登録番号 630

代表世話人 澤木昌典

http://www.geocities.jp/hyogo21_citizen/index.htm



残暑お見舞い申し上げます。

8月の声を聞いてからの梅雨明けで、自然災害ばかりでなくご自分の体に変調をきたされてはおりませんか？お互いに無理のきかない年代だけに体をいたわりましょう。といいつつ、21世紀のメンバーはそれぞれの夏を愉しまれている！と確信したりもしております。

さて、7月11日（土曜日・14時～17時）県民会館において、平成21年総会が開かれました。出席状況は会員55名のうち出席者13名、委任状9名、欠席1名でした。議長に澤木先生を選出し、予定された議題通り進行し会計報告も承認されましたことを報告させていただきます。

平成21年のご案内

— スタートは澤木先生による基礎講座 奮ってご参加を！

これまでのように知的サロン、研究活動を切り離して活動するのではなく、全員が両方に参加するという形をとるようにしました。定例日は会員の希望を集約し、第2週の木曜日午後3時から5時です。知的サロンと研究活動を交互にやっていきます（原則として）。

研究活動の・テーマは総会での提案に基づき「まちなみ・景観の評価研究」です。

・内容は、市民の視点から町並みをどのように評価するのかを、実地見学も入れながら進めていきます。

大阪大学の澤木昌典教授（本会代表世話人）のご専門の分野だけに、先生のお時間の許す中でお力を出していただだけそうです。とても心強く、みんなで話し合い面白がって展開していきましょう。どうぞ、興味をもってご参加ください。

◆日 時：平成21年9月10日（木曜日） 14：00～17：00

◆場 所：県民会館 11階1101号室

◆内 容：第1回は、澤木昌典教授（本会代表世話人）による基礎講座と今後の研究方向などについての話し合いをします。

*ご出席の有無を同封の返信はがきに記入し8月25日までに投函してください。

<知的サロンと研究活動の予定表>

10月8日	(木)	楽しみのシニアライフ（小林東生さん、足立隆子）
11月12日	(木)	研究活動2回目
12月10日	(木)	賀川豊彦記念館の見学 — 生誕100年にちなんで
1月14日	(木)	人と防災未来館の見学 — 震災15年
2月12日	(金)	研究活動3回目
3月11日	(木)	環境に関して（中川政美さん）

<会場は原則として神戸生活創造センター>

リトルチャロにみる メディア融合の在り方

ラジオ関西社長 古川 潤



NHKのリトルチャロが人気を集めています。

ニューヨークのケネディ空港で家族とはぐれてしまって迷子になった子犬が日本に帰るとい夢を持ち続け、うれしいこと悲しいことな

ど様々な場面に遭遇しながら、持ち前の正義感と優しさで友情を深め信頼を勝ち得て、目的を遂げるというストーリーの英会話番組です。

NHKはこの素材をラジオ、テレビ、インターネットと活字(テキスト)の4つのメディアを中心に展開しています。

教育テレビの番組タイトルは「リトルチャロ・体にしみこむ英会話」、ラジオ第2放送で展開しているタイトルは「チャロの英語実力講座」。NHK初のメディア融合番組という触れ込みでNHK総合テレビで番組宣伝も流れ2008年3月末にスタートしました。

今日は、同じ週に放送・放映されテレビとラジオのテキストを用意しました。読み比べていただくと、表現されている英語の行数、字数がラジオの方が多く、テレビが少ないことが一目瞭然に分かります。単純な話ですが、テレビでは「ご覧のように」と表現できるものが、ラジオではどのように見えているか説明しなければなりません。ですからラジオの台本の方がテレビより分厚くなるわけです。NHKのテキストは当然、テレビ用、ラジオ用が用意されています。

本日は、この番組がなぜヒットしたのかを論じるのが主題ではありませんが、とにかく主人公のチャロがかわいくて、うちの妻は番組を見てもすぐ軍手と余った糸でチャロのように見える子犬を作りました。NHKの語学番組テキストで一番売れているのは、遠山さんの英会話で月間約35万冊だそうです。チャロの実力英語講座は、初版20万部がすぐに完売、増刷を繰り返したといいますから多くのリスナー、視聴者に受け入れられたことは間違いありません。

また、インターネットのチャロのページでは、解説や類似表現の例文が満載されていますし、毎日ミニテスト

があり、成績が記録されている仕組みで、チャロが喜んでくれたり、励ましてくれたりもします。

私もラジオ関西の社長時代に英語番組作りに挑戦しました。ちょうど大学の共通一次テストでヒアリングが採用されることになっていましたので、ラジオで流した英語を翌日新聞で確認するというラジオと新聞のコラボレーションを考えました。結果は散々でした。広告が集まりません。ラジオの広告費だけならたいしたことはありません。しかし、このコラボレーションでは新聞とラジオ両方に広告費が必要になります。ラジオの担当者だけでなく神戸新聞の仲間も走り回ってくれましたが「企画は面白いけれど」で、短命番組に終わりました。これが、インターネットとの融合展開だったら、と何度思ったかわかりません。後の祭りです。

メディアの融合をうまく使っていると感心させられるのは、このリトルチャロだけではなく、通販会社ジャパネットタカタもそうです。タカタはラジオ関西と山陽放送でのラジオショッピングがマスメディアを使った最初の広告でした。いまは皆さんご存じのとおりです。テレビ、新聞折り込みなどを駆使しています。内容をチェックしていただくと、ラジオは単品繰返し型、テレビは数品紹介型、いずれも●日の新聞折り込みをと放送し、新聞折り込みで詳しく商品紹介をし、さらにインターネットでもっと多くの商品を詳しく紹介しています。

私は長い間、新聞記者でした。警察、神戸市政、国会なども担当しましたが、先輩やデスクから裏付けを取ることの大切さを事あるごとに叩き込まれました。情報をクロスさせることも身につけました。夜回りで得た情報はそれはそれなりに貴重なものでしたが、表現となると取材相手の言葉はそのまま使えません。時として、差別表現を含んでいたり、卑猥なたとえでコードにひっかかりそうなこともあります。どう昇華して記事にするか、それも新聞記者の大事な仕事でしたし、誇りでもありました。

テレビは都合のよいところを使います。インターネットは一方通行ともいえます。クロスされていない情報の怖さを多少知っていれば、そのまま鵜呑みにはできません。

しかし、時代は手間暇をかけることからどんどん離れていっています。

もっとも私が申し上げたかったのは、そのようなメディアの現状を嘆くことではありません。それぞれの特性を認識して使い分けるとい視聴者、リスナーの視点の重要性和スポンサーとしての賢いメディアの使い方です。

通信と放送の融合が取りざたされていますが、チャロはその融合モデルでもあります。インターネットで番組を後で聴くこともできます。IT 技術の発展は素晴らしいものです。

ここでテレビのデジタル化にも触れておきましょう。テレビもラジオも総務省から使用周波数を割り当てられています。ラジオ関西は 558 キロヘルツ、神戸で聴ける NHK 第 2 放送は 828 キロヘルツ。テレビはメガヘルツの世界です。メガはキロの千倍の単位です。テレビと同じような周波数域に携帯電話や家庭の電子レンジ、ETC などが含まれます。

総務省はなんだかんだと言っていますが、割り当て周波数が足りなくなってもっと細分化しなければならなくなった。この細分化にデジタル技術を使っているということです。

電波も光も電磁波ですから 1 秒間に 30 万キロ飛びます。

「波長×周波数=30 万キロ」ですからラジオ関西の電波の波長は約 530 メートルですが、テレビの波長はもっともっと短い。中波、短波、超短波といった表現はこの波長を区分してのことです。テレビにしる FM にしろ波長の短い放送は音が中派より格段にきれいなのですが、波長が短いと電波はあまり遠くまで飛びません。ラジオ関西が淡路島の大磯から関西一円に電波を発信しているのに対し、同じ神戸新聞グループのサンテレビは兵庫県内にぎっと 100 本の中継アンテナを立てています。携帯電話のアンテナも多いです。ETC も電波が遠くまで飛ばせば大変なことになる。飛び範囲が狭いから役に立っているわけです。

もうひとつ、むかし NHK の時報は時計の秒針がカチカチと動くようなものでした。最近は異なっています。デジタルでの送信、受信に圧縮技術が使われ、それを解凍して見えるようにするために東京発だと神戸で 2 秒遅れることになってしまっています。このため神戸放送局など地域放送局が時報をあらかじめセットして切り替える、というような手法を使っています。

問題は地震などの際に今の技術のデジタルで大丈夫かということです。私は、ラジオ関西で、聞こえない音で反応するものを作れと社員に命じました。「犬笛」の発想です。人間の耳には聞こえなくても犬には聞こえる、そのような音がある。それを感知する受信機にあらかじめメッセージを吹き込んでおけば、犬笛もどきの「ド」の音は震度 6、「レ」は津波警報といったことも可能です。模擬サンプルは、ラジオ関西のスタッフがすぐに作ってくれました。さらに本格的に地震・津波対策に役立てようと若いスタッフが、矢野電機や兵庫県の工業試験場と一緒に研究をすすめ、警報システムの開発に結び付けました。



ここで私が強調したかったのは、電波特性とデジタル化は直接関係がないということです。むしろ今のデジタル技術では、東京発情報に頼るとタイムラグができて人々を安全に避難させられません。「犬笛」の発信を大阪からでも京都からでも中波で発信すればタイムラグはなくなります。

ラジオ、とりわけ中波ラジオの公的使命はそんなところに残っているような気がしてなりません。ライフスタイルの中に組み込まれたマスメディアの融合の在り方は、もっと研究されてもよいでしょう。

そのようなことを理解していただいた上で、あらためて放送の内容・コンテンツの話をします。皆さんにお配りしました CD は「おもしろ神戸・ひょうご楽（がく）」の抜粋編です。たぶんどなたもお聴きになったことがないと思います。全部で 204 話。それぞれ 2、30 回は放送しました。なぜ神戸を神戸というか、「センター街と元町通りの対決」・・・。中身は本当に面白い。「神戸ゆかりの 50 人」や「兵庫 50 の木」といった小冊子も私の企画です。ラジオ関西の番組審議会委員の田辺真人さんと審議会後に雑談していて「先生ラジオでしゃべり」とけしかけ、ゆかりシリーズの執筆者の後輩記者、山崎整さんと呼んで、「あんたが学長」「あんたが副学長」といった調子で始めたものです。新幹線で「ヒメジ」と「ヒ」を強く発音されると、「どこやねんそれ」と言いたくなります。楽しい話、面白い話は、アクセントも含め地域の言葉・表現で広めたいものです。

この CD は、私の手作りです。パソコンでも聴けますのでお楽しみください。

会員の皆様へのお願い・お知らせ

◆平成21年度世話人

役 職	世話人
代 表	澤木 昌典
企画・推進	計盛 哲夫
総 務	塩野 勝
研 究	野口 民治
知的サロン	大竹 真一
広 報	足立 隆子
会 計	松原 宏治
監 事	苗村 康弘 豊田 實

◆会費納入のお願い

会計担当世話人 松原宏治

○平成21年度会費の納入をお願いします。
会費についてアンケートでお聞きし、総会でも検討しましたが、予算の関係上、今年度は据え置きとなりました。ご了承ください。

区分	平成21年度会費
個人会員	5,000 円
団体会員	50,000 円

○振込先

<銀行振込>

- ・三井住友銀行 兵庫県庁出張所 (428)
- ・口座番号 普通預金 3269542
- ・名義人 21世紀ひょうご市民学会

<郵便振替>

- ・口座番号 00900-3-140156
- ・口座名称 21世紀ひょうご市民学会

※同封の振込取扱票(振込料学会負担)をご利用下さい

◆会報への投稿をお待ちしています。

皆さんの研究内容や、社会問題に対するご意見、また市民学会へのご意見などを500～600文字程度にまとめて、広報担当世話人・総務担当世話人へ送付してください

総務担当 塩野 勝 078-914-7490

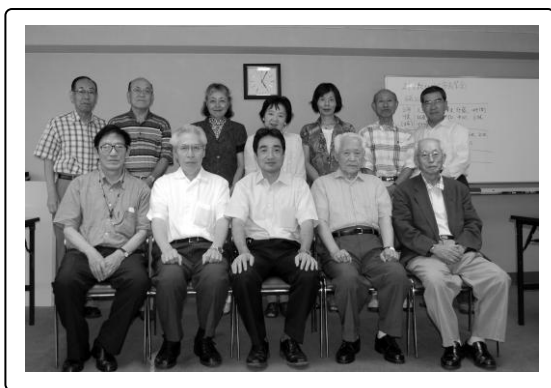
広報担当 足立 隆子 078-792-6243

◆21世紀ひょうご市民学会のホームページ

21世紀ひょうご市民学会のホームページのアドレスを下記に掲載しています。
お友達やお知り合いの方にもご紹介ください。

http://www.geocities.jp/hyogo21_citizen/index.htm
email:hyogo21ctzn@yahoo.co.jp

- *ホームページはリニューアルを準備中です。
新しいホームページのURLは次号でお知らせします。



全員集合!

総会風景



◆あとがき

これまで総務世話人として、この「21世紀ひょうご市民学会」を再構築し、動き出すようにすべての事務作業を担ってくださっていた田中有司さんが、ご家庭の事情で今総会をもって退会されました。いつかお元気なお顔を見せてくださる日が来ることを願っております。

「田中さん、いろいろありがとうございました」